

No.235
2018
3/10



はちおうじ

JR東労組
八王子地本

本部申15号 2018年度賃金引き上げに関する申し入れ 第2回交渉①

会社に支払い能力は充分にある！ 現場の労苦に見合ったベアを要求！！

- 3月9日、東労組本部は申15号交渉を行ないました。ベア交渉に入る前段で会社より6点、これまで述べた経緯を踏まえ、今後の労使関係の基礎的な条件と考える6点が提起されました。
- ①労使の紛争状態の根源的な解消を図り、労使間の諸問題を話し合いにより解決すること。
 - ②業務改革の効率化施策の実行に向け、時間軸やスピード感を持って進めること。
 - ③36協定の短期締結が現場は疲弊・苦勞させ、不安を与えていることを認識し、安定的な締結を行なうこと。
 - ④My Project など職場における自己啓発活動を尊重すること。
 - ⑤脱退した社員に対する嫌がらせ、非協力を行わないよう組織として指導すること。
 - ⑥「不当労働行為」といった事実と異なる喧伝をやめること。

対して本部は

「①～④は闘申1号で回答したスタンスは変わらない。⑤・⑥は申20号の団体交渉を行ったので、これ以上以下の議論でもない。会社からの主張は受け止めるが、現段階において脱退社員に対する嫌がらせ、不当労働行為の喧伝は今のところ掘めていない。そのような意見があったことは受け止めたい。」と回答しています。

ベースアップについて会社は『支払い能力という点では増収増益、コストダウンに伴う社員の努力、また大きな輸送障害、雪害対応を社員の苦勞・努力で乗り越えてきた。第3四半期・通期で増収増益。決算についても好調。新幹線の北陸・北海道、上野東京ライン等輸送関係の施策、インバウンド需要も好調。この間の効率化で金利・人件費の減。一方、今後人口減少によるマイナス効果、人手不足が出てくる。ホームドアの整備にかかるコスト。内部留保は現金でなく、建物等に形を変えて積み上がっている。簡単に還元できるかという慎重な判断が必要。』などとマイナス要因を強調しますが、「第3四半期決算で人件費が減少しているのは、少ない社員数で鉄道業を運営しているからである。連結決算は2兆2,070億円と2014年に比べて1,420億円も増加をしている。新幹線引当金を計上してもそれを上回る勢いで収入を上げている。単体でも同様だ。社員数が毎年減少していくなかで、どこも要員不足で職場は悲鳴を上げている。まさに現場にいる1人ひとりが身を粉にして働いてきた結果であり真摯に応えるべきだ。好決算からして6,000円は極めて妥当な要求であり、満額回答を求めると強く訴えました。



東労組本部交渉団は現場の苦闘を力強く会社に訴える！
要求しなければベアはかちとれない！東労組の団結力で要求満額獲得しよう！！